

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 福井県勝山市立勝山北部中学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1
☒ 中学校 ☐ 中高一貫 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
所在地 〒911-0045
福井県勝山市荒土町伊波21-2
E-mail hokubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp
Website http://hokubutyu.mitelog.jp
幼児児童生徒数 男子 69 名 女子 67 名 合計 136 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

（1）活動の概要

当校は、「自ら行動し、未来を拓く生徒の育成」を学校教育目標として、E S D を体験活動と発信の場と捉え、E S D の実践を通して自信を持って発信する生徒の育成を目指した。

具体的には、「北中まちづくりプロジェクト」と銘打ち、『勝山を美しく、元気に、有名に』というコンセプトのもと、環境保全、福祉、地域活性を柱に①環境保全に係わる活動、②地域に係わる活動、③福祉に係わる学習および活動を行った。

①環境保全に係わる活動

<小中連携環境保全活動>

毎年、校区の 3 小学校と連携し、小学校 6 年生の次年度の中学校入学を視野に入れ、中学校 2 年生と交流を行っている。一緒に環境保全活動を行いながら、中学校についての話をしたり、不安なことや疑問に答えたりしている。3 つの小学校とは、それぞれ①勝山特有の河岸段丘を含む美しい景観を守るための環境整備、②外来種のセイタカアワダチソウの駆除、③バイカモが生息する川の清掃活動を行った。

②地域に係わる活動

<学校祭の体験活動で地域の達人に教わる>

本校の校下には、古くから伝わる伝統産業や現在行われている産業があり、それぞれに達人がいらっしゃる。身近にあり、これからの勝山に残し

たいことでもある。学校祭でそれらの有識者の方を講師にお招きし、生徒全員で体験活動を行った。4つのグループに分かれ、ミニ盆栽づくり体験、木工小物づくり体験、岩石標本づくり体験、抹茶体験を行った。

＜勝山と他の地域との比較＞

遠足で訪れた金沢は、北陸新幹線が開通し、観光客で賑わっている。その視点から、勝山に何が足りなくて、何が必要かを考えることにした。金沢らしさをたくさん見つけた上で、校外学習で勝山市内の観光資源やジオパークを見てまわり、金沢と勝山の比較をした。そして得た情報をもとに、勝山の活性化策を学年全体で考えた。

＜地域に中学生のチカラを＞

これまで勝山をPRグッズの販売体験および本校の活動をPRする活動は勝山市の大きなイベントや祭礼時に、市内外から訪れる人に行ってきた。今年度は自分たちの住む校区内の各地区に目を向け、勝山をPRグッズの販売体験および本校の活動をPRする活動を行った。これまで各地区では毎年、町民運動会や文化祭などが恒例行事として行われ、中学生は各地区において役割をもらい、ほとんどの生徒が積極的に活動している。その機会に本校が取り組んでいる環境保全活動のことや勝山をPRするグッズのことを地域の人に知ってもらい、そのやりとりの中で、北中まちづくりプロジェクトの内容を話し、コミュニケーションを図った。

③福祉に係わる学習および活動

＜認知症サポーター養成講座および福祉施設訪問＞

1学年が福祉施設を訪問するにあたり、勝山市地域包括支援センターと勝山市社会福祉協議会の協力のもと、厚生労働省が推進している「認知症サポーター養成講座」を受講した。校下の小学校区にそれぞれある福祉施設の特色を調べたり、入所者の介護レベルを電話で尋ねたりした上で、交流する内容を話しあって考えた。このプログラムのまとめとして、出身小学校の校区にある施設を訪問し、清掃活動とふれあい活動を行った。

＜RUN伴の応援＞

2学年では、前年度に認知症サポーター養成講座を受講したことをきっかけに、「RUN伴」の応援をするという行事に参加させてもらった。RUN伴とは、認知症の人と伴に生きる社会を目指し、認知症の人、家族、支援者、一般市民が協力し合い、1つの襷をつなぎながらゴールを目指すイベントである。学校付近を走るランナーを、オレンジ色のものを見に付けて応援した。サッカー部はオレンジのユニフォームを着て伴走し、吹奏楽部はオレンジのTシャツを着て、演奏でエールを送った。



① 小中連携環境保全活動
(河岸段丘の整備)



② ミニ盆栽づくり体験



② 活性化策発表会風景



②地域の文化祭でのPR活動



③認知症サポーター養成講座



③ ラン伴応援

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

勝山市のホームページ <http://www.city.katsuyama.lg.jp>
 勝山まちなかめぐりガイドマップ他
 RUN伴公式サイト <http://runtomo.org/>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

当校では、N I E 活動を通して環境教育、福祉活動の実践等、地域に根ざす活動を総合的な学習の時間や各教科、生徒会活動で横断的に取り組むための E S D カレンダーを作成している。また、各地区の公民館や地域の人と一緒に活動し、運動会、雪祭り、文化祭、市内イベント等を発信の場として活用している。

各教科の中では、「発信力」を高めるために、論理的な思考力の育成とスモールステップを利用した話し合い活動に重点を置き、指導にあたっている。

また、生徒が体験や発信を通して出てきた課題を明確化し、次の活動への意識を高く持たせるための手立てとして利用している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校内研修等で、E S D 全国大会や北信越ユネスコスクール交流会、勝山市教育委員会が中心となって行う E S D 担当者会議に参加した教諭からの報告をもとに、E S D の概念を共通理解できる場を設定している。

研究授業では、指導案の中に“E S D の視点”を盛り込み、意識を促している。

学校行事においては、発表する場として保護者だけでなく、地域の方にも公開している。また、学校だよりや blog で取り組みを発信している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部評価では、「E S D の理念をふまえた実践に取り組めたか」という項目に対して、職員 14 人中 3 人が達成できている、10 人が概ねできていると評価している。教職員は意識して指導できているが、生徒たちが明確な課題を意識してやっているのか、目の前のことを消化するだけに終わっていないだろうかという意見がでてきた。今後は、継続して活動している意義を考え、経年変化を捉えた上で、次年度の活動を構築していく必要がある。また、当校だけでなく、市内中学校間での連携を取り入れ広げていきたい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度） ※チェック事項 2-2 に対応

環境保全活動と学校祭での体験活動については、新聞社に取材してもらった。勝山独自の景観を守る活動を展開していることや地域の達人に教わり、伝統文化を学び、体験していることをたくさんの人に知ってもらうことができた。

また、北中まちづくりプロジェクトとして行っている勝山をPRするグッズの販売活動と一緒に、チラシや呼びかけによる活動PRと環境保全基金を募る活動を行っている。勝山市の中では浸透してきたのか、「北中がんばっているね。」など、たくさんの人に声をかけてもらえるようになった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

校区の地区である荒土町のふるさとづくり推進協議会の方々が、環境保全活動の際には、環境の説明から作業の補助まで協力してくださり、年の市というイベントの際にも、共同で出店させていただいた。

福祉学習については、勝山市社会福祉協議会の方に来ていただき専門的な話をお聞きした。また、RUN伴は、認知症サポーター養成講座を受講したことを保護者に発信し、それを知った保護者（福祉に携わる仕事をされている方）からきっかけをいただいて、イベントに参加することができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

勝山市は市内全小中学校がユネスコスクールに登録しており、各学校にESD担当者がいる。勝山市教育委員会が中核になり、年に3回ESD担当者会議を行い、情報交換・共有を行っている。

また、当校は今年度のユネスコスクール全国大会が行われた福岡県大牟田市の橘中学校に資料提供をした。総合的な学習の時間の授業における、当校の福祉の取り組みについて知ってもらい、その活動をもとに「人が真ん中のまちづくり」に何が必要かを考えるきっかけにいただいた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

環境保全活動を長年継続して行ってきた。ゴミの量の変化は年々減少していることがわかるが、自分たちの呼びかけによる成果と言えるかという実感がない。その中で生徒から今後どうしていくかを考え、市内の中学校との連携を図るとよいという案が上がった。生徒自ら声が上がったということが、より積極的な活動につながると考える。

今年度、道徳の研究授業でLGBTについて取り扱った。これまであまり触れられてこなかった分野を授業の資料に用いたことで、教員の中でジェンダー平等についての意識が強くなり、今後ESDでの取り組みとして道徳との関連をより深く考えながら指導にあたることができると考える。

（3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度も「北中まちづくりプロジェクト」を中心に、環境教育、福祉教育、地域の伝統文化・文化遺産を題材にした活動を展開していく予定である。

環境保全活動・福祉学習および活動・地域学習や活動すべて継続した活動を行う。

環境については、これまで継続して行ってきた活動に加え、市内3中学校の意見交流を、遠隔システムを使ったテレビ会議を行い、今年度の活動に生かしていく。

地域学習や活動については、3年生において修学旅行で見てきたことや学んできたことから、勝山活性化策を考え、勝山市に提言できるような場の設定をしていきたい。また、勝山をPRするグッズに関しては、より勝山をPRすることができて使ってもらいやすいグッズの製作を行い、PRする場の工夫も考えていく予定である。生徒からの提案の1つに平成30年度福井県で開催される福井国体の機会に、勝山を県外の人たちにPRする場として利用できるとよいという意見があった。生徒の積極的な提案を実現していくための手助けをしてきたい。